

SSH 海外研修 実施計画書

1. 件名 『SSH 大韓民国 海外研修』(要求番号: 07-0646-002)

2. 実施目的

本校と姉妹校提携を結んでいる韓国の科学重点校である新道林高校を訪問し、研究発表会や異文化交流を通じて、本校生徒の課題研究の深化や英語など外国語によるコミュニケーション能力の向上および国際的な視野を持つ科学技術人材の育成につなげることを目的とする。

また、両校の国際共同課題研究の実現により、両校の教育交流の一層の発展を目指す。昨年 12 月の新道林高校への訪問の際に、両校の共同研究のやり方について具体的な形を示してきたところ、今年 5 月に共同研究のオファーがあり、オンラインを活用して共同研究を行い、今回の訪問でその成果についての報告会も行いたい。

さらに、韓国最大でかつ世界最大級の半導体テクノロジー企業であるサムスン電子が有するサムスン・イノベーション・ミュージアムを訪問し、サムスンの専門解説員や現地ガイドの指導のもと、カーボンニュートラルや省電力を実現するための半導体の技術革新について研修することで、海とエネルギーのまち柏崎の特性と最先端のテクノロジーの知見を活かした課題研究につなげる。

3. 前年度引率教職員からの申し送り事項等

(1) 新道林高校との研究交流について

① 昨年 12 月の新道林高校への訪問の際、同校の梁 禎純(ヤン ジョンスン) 校長に、これまでの新道林高校との話し合いで出ていた懸案事項に対する本校側の回答(要望)について引率教諭が以下のとおり伝えた。

- ・本校としては今後も末永く貴校と科学研究交流(姉妹校交流)を続けたい。
- ・本校としては今後も毎年 1 回、新道林高校を訪問させていただきたい。
- ・訪問時期は従来通り 12 月が第一希望だが、気候や新道林高校の都合を考慮し、他の日程も検討する。
- ・新道林高校が本校を訪問する時期については、貴校の意向を尊重し、臨機応変に対応する。
- ・SDGs などの共通テーマで日韓共同課題研究を実現できないか。
- ・オンラインを活用して、共同課題研究や教育について意見交換やディスカッションを実施できないか。

② ①に対する新道林高校からの回答

韓国内の急激な人口減少および生徒減少を背景とした新道林高校の教職員定数の減少により、

業務が逼迫状態であり、業務の見直しが喫緊の課題となっていて、今後の本校との交流方法についても検討を進めているので、検討結果がまとまったらお知らせする。回答はしばらく待つてほしい。ただし、高校生どうしの国際交流は大変重要ということは十分に認識している。

③ 本年度（令和 7 年度）に入ってから、新道林高校から以下の回答があった。

- ・新道林高校は本年度も来日することはできない（本校を訪問できない）が、柏崎高校の訪韓は歓迎する。ただし訪韓時期を 11 月第 3 週目にしてもらえないか。
- ・オンラインによる共同課題研究については、2 年生で希望する生徒が 3 名ほどいたので、1 グループ程度なら実施できる。

(2) 国立果川科学館研修について

- ① 2017（平成 29）年以来、6 年連続（2020～2021 年はコロナ禍により中止）で国立果川科学館を研修先としてきた。日本国内の科学館よりもかなり広大であり、1 回の研修では全館を回りきれないため、本校生徒の課題研究の深化に役立ちそうな展示館に絞って研修を続けてきたが、昨年度で全館を見尽くした。
- ② 国立果川科学館での研修は、韓国の先端科学や伝統科学など広く科学を俯瞰し、広い視野で課題研究を深める上では大いに役立ったが、より専門性を高めて課題研究を高度化する上では科学館での研修では不足であり、大学や企業の研究に触れさせることが重要である。

(3) (1)および(2)の申し送り事項を受けて検討した結果、本年度の S S H 大韓民国海外研修について以下①～③の改革を行う。

- ① 本年度から、新道林高校との共同研究班を作り、オンラインによる定期的な情報交換をしながら、同校と共通テーマによる共同課題研究を実施し、新道林高校を訪問した際にその成果を合同で発表する。
- ② 本校の訪韓時期を、11 月 18 日（火）～20 日（木）とする。
- ③ 研修先を「サムスン・イノベーション・ミュージアム」とする。同館は英語による外国人への双方向対応が可能であり、質問をしながらの主体的な研修が実施できる。また、電力損失が少ないパワー半導体は「カーボンニュートラル」や「グリーントランスフォーメーション (GX)」の実現に向けたキーデバイスとなっており、半導体の知見を理解することは、本校が目指す「海とエネルギーのまち柏崎の特性を活かした課題研究」を深化させるのに有効である。

4. 実施期間

令和 7 年 11 月 18 日（火）～ 令和 7 年 11 月 20 日（木）（2 泊 3 日）

5. 参加予定者及び人数

① 引率教職員

新潟県立柏崎高等学校教員 2 名（氏名：〇〇 〇〇、□□ □□）

② 参加生徒

新潟県立柏崎高等学校 普通科 1・2 年生のうち、共同研究班のメンバーを含む 12 名

6. 研修先及び研修内容 (①研修内容・②手法・③効果)

(1) 新道林高等学校

①研修内容

新道林高校を訪問し、両校生徒による研究発表会および異文化交流会を行う。本校生徒は学校設定科目「KSPⅠ（1年）」および「KSPⅡ（2年）」で行っている課題研究の成果を英語で発表を行う。うち、1グループは新道林高校との共同研究班であり、同班は新道林高校と合同で研究成果を発表する。

②手法

学校設定科目「KSPⅠ（1年）」および「KSPⅡ（2年）」で行っている課題研究の成果をプレゼンテーションソフトを用いて英語で発表および質疑応答を行う。日韓共同研究や今後の研究交流について、新道林高校の生徒・教員とディスカッションや情報交換を行う。

③効果

韓国の科学重点校である新道林高校との相互訪問による研究交流は、互いに良い刺激となり、課題研究の深化や、英語を学ぶ意欲と目的意識の向上および国際的な視野の醸成に寄与する。

(2) サムスン・イノベーション・ミュージアム

①研修内容

4階建ての展示フロアのうち、エネルギーの関連する「3F 企業イノベーションの時代～豊かな生活を実現する～」、「2F クリエイティブの時代～豊かな未来を夢見る～」の2つのフロアにおいて現地ガイドや展示解説員の指導のもと、カーボンニュートラルや省電力を実現するための半導体技術について研修する。

②手法

現地ガイドや展示解説員の指導のもと、展示物の内容から半導体による技術革新の知見を得る。

③効果

海とエネルギーのまち柏崎の特性と最先端のテクノロジーの知見を活かした課題研究の深化につながる。

7. 現地ガイド

- ・現地ガイドあり（1名）

サムスン・イノベーション・ミュージアムでの研修を円滑に行うため、同館の展示解説員は1団体30分程度の短時間対応であることから、英語や日本語への通訳が可能で専門知識がある館外の現地ガイドを手配したい。

8. 添乗員

- ・現地添乗員あり（1名）

訪問国において、現地の空港到着～空港出航まで、現地における安全確保と研修を円滑に実施するために韓国語と日本語の通訳が可能な現地添乗員を手配したい。

- ・国内移動時の添乗員（1名）

同行理由： 航空機の搭乗手続き時のトラブルや航空機欠航等、緊急時の迅速なサポートが必要のため、国内移動時の添乗員を手配したい。

9. 現地の外部講師

- ・現地の外部講師なし

10. 事前学習内容

- ・4月～10月 2年生は、新道林高校との共同研究班の募集およびK S P IIで課題研究を行い、発表内容の検討、および海外研修に参加する代表メンバーの選考を行う。
- ・7月～10月 1年生は、K S P Iで2学期から課題研究を行い、発表内容の検討、および海外研修に参加する代表メンバーの選考を行う。
- ・7月 CASEC による事前英語力測定および海外研修参加メンバーを選考する。
- ・6月～10月 英語や韓国語を用いて、次の活動を行う。
▽遠隔ミーティングによる新道林高校との研究情報交換
▽サムスン・エレクトロニクス・ミュージアムの展示物に関する韓国語資料読解
- ・10月～11月上旬 発表準備（英文での発表資料作成、ALT や英語科教諭による英文添削）
- ・11月上旬～ 発表リハーサル

11. 事後学習内容

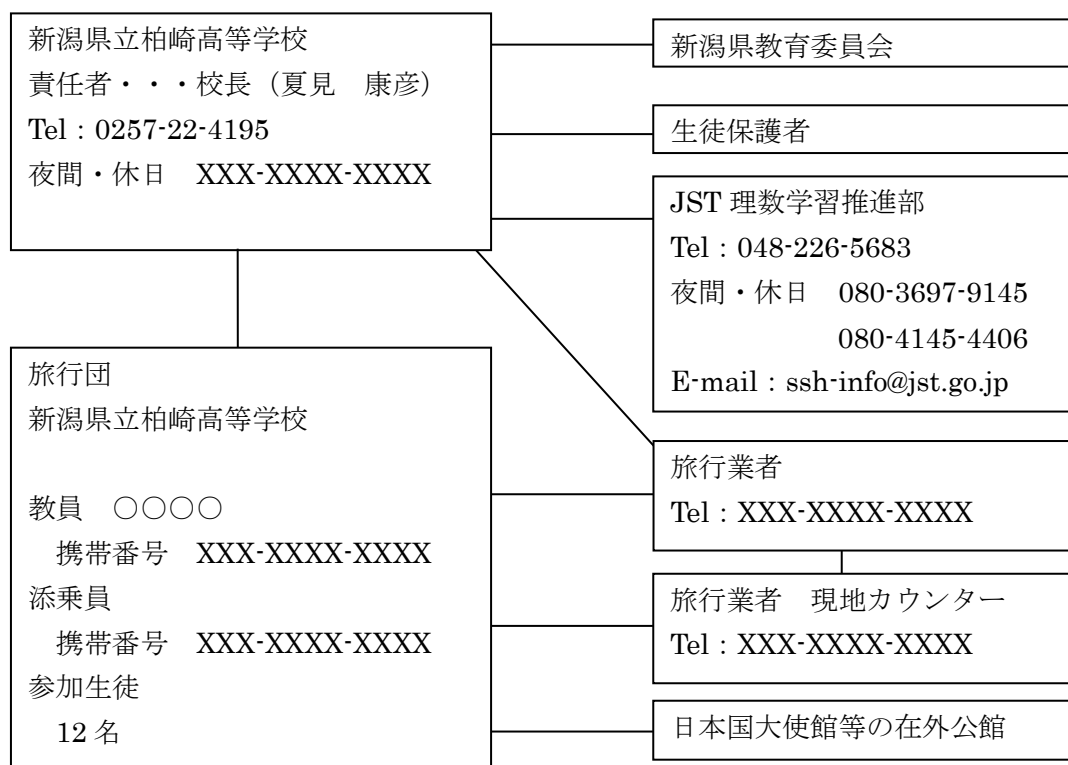
- ・11月下旬～1月上旬 海外研修に関する研修レポートを作成し、校内で公開、全校に還元する。
- ・11月下旬～1月下旬 柏崎市文化会館アルフォーレにて行う課題研究発表会に向けて、英文発表資料（スライド）をブラッシュアップする。
- ・12月 CASEC による海外研修参加者の英語力事後測定し、海外研修実施前後の英語力の変化を分析する。
- ・1月～3月 海外研修で得られた知見をもとにさらに課題研究に取り組む。
課題研究発表会において海外研修で培った英語力を活かして研究発表を行う。

12. スケジュール詳細

別添「『SSH 大韓民国 海外研修』行程表」を参照のこと。

13. 安全管理

- ①訪問先の全行程について、学校および旅行代理店や現地添乗員、新潟県ソウル事務所と緊密な連絡・連携を取ることで、非常時の安全を確保する。
- ②海外旅行保険、欠航保険に加入する。
- ③非常時の連絡体制は引率教諭および旅行代理店が確保している。また、学校内は緊急連絡網を通じた連絡体制を整えている。
- ④安全対策や危険回避のための対策として、危険情報あるいは感染症危険情報等、現地情報の収集に努め、状況によっては中止も含めて適切に判断する。
- ⑤外務省海外旅行登録「たびレジ」への登録を行い、緊急時の連絡、安否確認、支援などのサービスを確保する。
- ⑥安全連絡体制



・海外対応携帯電話の番号については、X/X までに確定する。番号が確定次第メールで JST へ連絡する。

14. その他

以上